語り継ぐ土砂災害

災害体験の
生の声を
お聴きください

昭和26年(1951)9月

キジア台風の豪雨により発生した土砂災害
(広島市安佐南区大町地区)

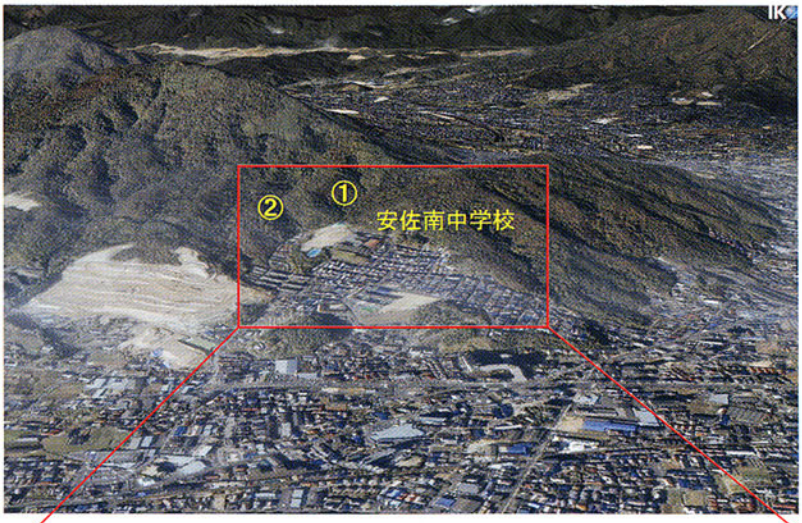
人的被害を伴わない、記録の上では小さく扱われた土砂災害は、人々の記憶の中からも時とともに薄れ、体験を語り継ぐ努力無しには地域の防災意識そのものが消え去ってしまいます。過去の体験を伝承し、土砂災害に備える警鐘を鳴らし続ける事は決して容易な事ではありません。

＜以下、体験談＞

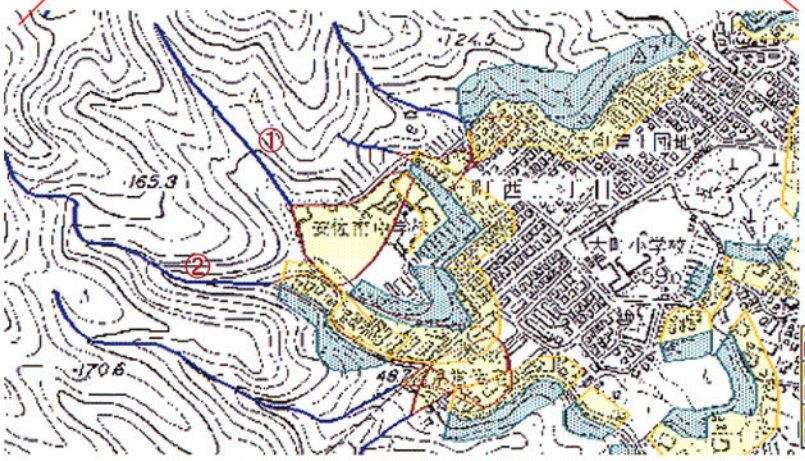
＜大町地区に発生した土砂災害＞

昭和25年(1950)のキジア台風と言えば岩国錦帯橋が流出したことで記録に残っていますが、ここ大町では、山の上から下まで一気の土石流が起きていたのです。幸いにも人的な被害はありませんでしたから、災害記録として残っているものはありません。私らは、腰までの泥水の中を、もがくようにして逃げたものですが、その後、今日までそのような災害は起きていません。起きていないから良いようなものですが、その当時は、土砂の流れを遮断する働きをした竹林や、遊水池の役割をした田畑がありましたが、現在は住宅が建ち並んでいます。でも、山の形は変わってないんです。その当時と同じような雨が降ったら、今度はひとたまりもないのは明らかなのです。

当時の悲惨さを知っている者が伝えなければいけない。今の人たちは、目の前に災害が見えないから、なかなかわかってはもらえない。被害に遭ってからでは遅いのに・・・・（岡さん）



災害体験をしてみたらよくわかる。でもわかった時に悔やんでも遅い。絶対の安全なんかはないんだ。（黒河さん（大町富士団地町内会長）、岡さん）



凡例

土砂災害危険箇所図【広島県土砂災害マップより】

①安川支川74(I-1-9-292)
②安川支川75(I-1-9-291)

＜語り継がれる警鐘：雨が止むと土砂がくる＞

昔、災害が発生した頃は、私のおじいさんの時代、昭和3年(1928)頃が最も大きな災害であったと聞かされていますが、その頃は周りが田んぼでしたから、田が崩れて斜面となってどんどん下流に流れていくのです。田が崩れるだけですから被害額は軽微ですが、その中に閉じこめられたら、生け贄のようなものですよ。もがいてももがいても抜け出すことはできませんから。

私が記録している戦後の災害は、雨が150㎜ぐらい降った時のものです。今この雨が降ったら・・・・

今の人は、雨の事だけを心配する傾向があります。テレビなんかが雨のことを大きく伝えますからね。でも、土砂は、雨の中では動かないのですよ。雨が止んで、もう大丈夫と思った時に、山は、土砂は動くんです。動き出したら止められませんよ。

わからんじゃすまんのよ、災害は。

一見何もなさそうな山が豹変するのが土砂災害。

こんなところの木々をなぎ倒して土砂が突き進む

＜強く鳴らす警鐘：土砂災害を、危険性をあまくみないで!＞

今、住宅団地が出来ているところが安全か危険かは、個人の判断になりますが、過去そこが遊水池や、土砂を止める自然堤防であった竹林があったことは、知られていないのです。今、小山や竹林が整地されて、住宅が建ち並んでいますが、斜面にはなにもされていないし、水の流れにも気が配られていない。避難場所とされている中学校でも安全とは言えない場所にあるのです。

地域全体の防災意識、避難態勢の周知、これを言い続けるのが、私たちの役目でしょうかね。

安全に対しては、常に気を付けてないと、すぐに危険が追いついてくるのですがね・・・・・

語り継ぐ。地域の安全をまもるために。

このお話のポイント

- 災害は繰り返す。地域の災害史に興味を持っておこう。
- どのような災害が、どのような気象状況で発生するか、この地域の特性は何か、について、知識をもっておこう。
- 防災の意識、避難の意識、「もし危険になったら・・」の対応策を、個人だけでなく地域で取り組んでおこう。そして地域の避難訓練には参加しよう。

現在の大町地区は災害防止のため国土交通省太田川河川事務所が砂防堰堤の整備を計画しています。

お問い合わせ先

国土交通省中国地方整備局
太田川河川事務所工務第二課　防災体験談募集係
〒730-0013　広島市中区八丁堀3-20　TEL　(082)222-9244　FAX　(082)211-1250
URL　http://www.cgr.mlit.go.jp/ootagawa